

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年7月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200961		
法人名	有限会社 フルハウスカンパニー		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	ひまわり
所在地	〒316-0001 茨城県日立市諏訪町1-20-18		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870200961&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年1月25日	評価確定日	平成24年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>歴史ある諏訪の閑静な住宅街にあり、地域のお祭りに参加する等、地域の人々や、ひまわり畑で取れた無農薬野菜を収穫するなど自然とのふれあいを持ち、充実した「なじみ」の暮らしを目指しています。利用者様の笑顔、心の安定を図るべく、ミュージックケアや自彊術の研修を受けたスタッフも対応、たくさんの笑顔があふれています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は地域密着サービスのあり方をしっかりと捉えており、地域の協力医療機関と連携するとともに、近隣の交流センターの文化祭に利用者と職員で作製した作品を出展したり、交流センターの夏祭りに利用者と家族等と一緒に参加するなど、地域の人々と交流している。</p> <p>月2回自彊術（じきょうじゅつ）の講師を呼んで職員を対象とした教室を開催し、職員は学んだ自彊術を活用して利用者の手や肩、足などを揉んで健康維持に役立てている。</p> <p>管理者と職員は利用者にかみ細かなサービスが提供できるよう話し合いを重ねるとともに、利用者に対して笑顔を絶やさず穏やかに対応しながら支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様が、その有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営む事が出来る様、家族、地域の協力を得て支援する。」という理念を掲げ実践している。	運営母体と職員で理念を見直し、「利用者がその有する能力に応じて可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう、家族、地域の協力を得ながら支援する」との理念を作成している。 職員は共用空間に掲げてある理念に目を通すとともに、ミーティング時に再確認して共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域の夏祭りや、文化交流会などに、利用者全員で参加し、交流するとともに、地域ボランティアを毎月受け入れ楽しく過ごしている。	近隣にある交流センターの夏祭りや文化祭に、利用者と職員で作製した作品や利用者が製作したエプロン、小物、習字などを出展し、利用者が訪れた地域の人々と交流ができるよう支援している。 毎月ボランティアを受け入れて牛乳パックを利用した皿やペン立てを作り、利用者は自分で作った皿を使用している。 利用者は近隣住民と一緒に散歩をしたり、居間兼食堂で一緒に茶飲みをするなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に住む、一人暮らしの高齢者との交流や地域ボランティアの交流会に参加させていただきながら、認知症の方々への理解を深め、お互いに共有できる時間を大切に支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行政を始め、地域代表、家族、利用者様の参加により、会議の都度状況を説明、皆様に、ご意見、ご指導をいただき、サービスの質の向上の為に有意義な話し合いをしている。	運営推進会議は市職員や民生委員などの参加を得て2ヶ月に1回開催し会議録を作成している。 会議では運営状況の説明や行事報告をしているほか、委員と活発な意見交換している。 「市内で感染症が発症しているので留意して欲しい」との委員の意見を受けて、職員並びに利用者が手洗いを励行するなど、会議で出た意見等を運営に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員は、市の担当部署を訪問し、事業所の運営や課題などを相談している。また、月1回介護相談員が来訪し、介護情報の意見交換をしている。	市担当者が運営推進会議に出席し情報交換をしているほか、管理者は市担当者に利用者の困難事例を相談してアドバイスを得るなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内部の職員研修において、マニュアルをもとに、学び合い、職員全員の理解をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成するとともに、職員は内部研修を受講して禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為と弊害を理解している。 玄関や居室は施錠せず、職員の見守りで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、勉強会や、マニュアルをもとに高齢者虐待について、知識の向上に努めている。また、ご本人の状況の確認や、職員の言動、行動に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解活用するための研修に参加、学び合い、一人ひとりが必要に応じて活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際には、書面を使用し、十分な説明を行っている。その際、利用者や家族からの質問や疑問に対してじっくり話を聞き、説明を行い理解を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。職員は、利用者や家族等から、苦情や意見を聴きミーティングで検討するとともに、サービスの質の向上に生かしている。	重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 家族等の面会が多くその都度気軽に意見や要望を聴きミーティングで検討してサービスの質の向上に活かしている。 毎月介護相談員を受け入れ、利用者と話し合いの場を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、グループホームミーティングへ参加し、意見や提案を聞き、運営に反映させている。	管理者は毎朝の申し送り時や月1回の全体会議で職員の意見や要望を聴く機会を設け、出た意見等を運営に反映させている。 職員から出た「毎月の勤務表を早めに出して欲しい」、「浴室のエアコンの故障を直して欲しい」などの意見を受けて改善している。 管理者は職員が気楽に意見や提案を出せるような雰囲気づくりに努め、いつでも相談にのっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月1回職員と面談し、相談や質問を受け付け職場環境・条件の整備向上に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員は、内部研修を3ヶ月間受講している。また、外部研修の案内を回覧して、自主的な参加を促している。看護師による研修会を、月に1回開催し、職員の介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市主催の地域密着型サービス事業研修会や、ケアマネージャー協会主催の研修会に参加し、交流する機会に意見交換会を行うと共に、サービスの質の向上に生かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との面談時、状況や要望等を良く聞き取り、統一したケアが出来るよう情報の共有を心がけている。24時間を通して細かな記録や申し送りをして安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時より状況や要望を良く聞き取り、スムーズにサービス利用が進むようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにおいてターミナルケア迄サービスを利用できる今日です。巾のある支援・対応を見極め、本人、家族が納得していただけるようコミュニケーションを大切にした対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々の生活の中で、洋裁や野菜作り、生活の知恵、季節の行事のご馳走作り、昔ながらの味付けなど、多くの事を教えてもらい、利用者と共に学んだり、支えあう関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人の訴えている事を家族に伝えと共、協力していただける家族との絆を大切に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時、ホームを訪ねてくる馴染みの方々との面会場所の提供をしている。また、家族や職員と共に外出するなど、「会いたい人」「行きたい場所」は、大切に支援に努めている。	面会者が多く、親戚や友人の来訪時には居室のほかに面会場所を設け、気軽に話ができるよう支援している。 家族等の協力を得て馴染みの理・美容室へ行けるよう家族等の都合や利用者の状態に合わせて連絡調整を行い、利用者が馴染みの場所に継続して行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「出来ること」「出来ないこと」を認め合い、感謝の気持ちを忘れず、言葉や行動を通して、利用者様同士が関わり支え合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームより、本人の強い希望で自宅に戻られたがおられます。現在も引き続き訪問サービス・デイサービスを利用しながら相談や支援を継続中である。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、生活歴を把握すると共に、日々の生活の中で、利用者様の残在機能や、どの様に暮らしていたのか、思いや意思の把握に努めている。	職員は基本情報で利用者の生活歴を把握するとともに、行動や声のトーン、しぐさなどを観察しながら意向の把握に努めている。 意向の把握が困難な利用者の場合は家族等の面会時に話を聴き、利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、出来るだけ聞き取る事に行っている。利用時の困った状態ではなく、職員の知らない生活歴を知る事でどの様に対応支援していくか参考にしている。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、本人の生活や、言動などにも注意を払い、気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い、情報を共有しながら、本人の現状把握を行っている。	/		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等から、意見を聴くと共に、全職員で、モニタリング、カンファレンスを行い、利用者の意向に沿った、介護計画を作成している。	介護計画は管理者や介護支援専門員、職員などで話し合い作成するとともに、家族等の面会時に説明して確認を得ている。 2ヶ月毎にモニタリングを行い、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、本人の生活や、言動などにも注意を回り、気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い、情報を共有しながら、ケアの実践を行っている。また、それらをもとに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に沿って、地域ボランティア活動への参加、買物などの支援をしている。また、24時間の医療連携体制を生かして急な往診など、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が、ホーム近くの友人宅を訪ねたり、地域ボランティア活動への参加、映画鑑賞や外食への誘い等、ホームの中だけでない楽しみの持てる支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望により、主治医を決めている。また、協力医による月2回の往診のほか、看護師による、週3回の見守りなど利用者が適切な医療を受けられるように、支援している。	利用者や家族等の希望を確認し、かかりつけ医を決めるとともに、受診は基本的には家族等が付き添っているが、緊急時には職員が受診支援をし、結果は電話で家族等に報告している。 月2回近隣にある協力医療機関の医師による訪問診療を支援しているほか、週3回看護職員による利用者の健康チェックをしている。 緊急時には協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、本人体調な変化や、身体の観察を行い、気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い、情報を共有しながら、ケアの実践を行っている。また、それらを看護職員へ相談、情報の共有を行い、必要な看護を行えるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医による週1の往診の際に、利用者様、ご家族が安心していただけるよう情報交換を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の関係者からの意見を聞き、事業所内で、方針を検討し統一したケアが出来るようにしている。重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人、ご家族等と話し合いを行い、ご希望に添ったケアが出来るように支援している。承諾書作成捺印をいただいている。	重度化や終末期の対応に係る指針を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 現在までに看取りの経験はないが、ターミナルケアマニュアルを作成したり、承諾書などの様式を作成している。 看取り介護に備えて看護職員を中心に勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、看護師による研修会を、月に1回受講している。また外部研修へも参加し技術の向上に努めている。マニュアル作成。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の人々の協力体制については24年5月に計画をしている。今年3月の震災時は、食料、水等の備蓄があったが、地域、ご家族の方々に多くのご協力を戴いた。さらに、不自由な生活でも、「我慢する事」を利用者様から学びました。	消防署立会いを含め年2回避難訓練を実施するとともに、訓練後に検討会を行い記録に残している。 火災や地震の災害に備えて職員は消火器の使い方を訓練するとともに、食糧や飲料水、懐中電灯を備蓄している。 夜間を想定した避難訓練を実施したり、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、運営推進会議で話し合い、近隣住民に避難訓練への参加を働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、介護支援する中で、人格を尊重した言葉かけを大切にしている。常に利用者を目上の方として誇りやプライバシーを損ねない様に対応している。	職員は基本情報から利用者一人ひとりの生活歴を把握し、さりげない言葉かけや小声で話しかけるなど、利用者の人格を尊重した対応を心がけている。 利用者の個人情報に関する書類は事務所のロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常生活の状況を把握し、また、本人からの話を十分に傾聴できるように心がけている。そうした中で、ご本人の希望を尊重し自己決定しながら生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、利用者様一人ひとりが、散歩や縫い物、書道など好きなことをして、過ごすように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望をもとに洋服を選んだり、頭髪を希望のようにアレンジしてみたりしている。また、定期的に床屋が来訪し散髪を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者様の残存機能を把握し、一緒に食材を切ってもらったり、盛付けや、後片付けを手伝ってもらっている。献立に、利用者様の嗜好を取り入れると共に、職員は利用者様と共に食卓を囲み、支援しながら、食事をしている。	職員は利用者と一緒に食卓を囲みながら食事をし、声かけや会話をしながら食事を楽しめるよう支援している。 利用者は職員と一緒に食材を切ったり、盛りつけや後片付け、お盆拭きなどをしている。 食事が楽しみなものとなるよう、季節に合わせた行事食や利用者の好みの食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の状況を確認し、ご本人の好みなどに配慮しながら、バランスの良い食事の提供を心がけている。また、食事量、水分量を記録し、必要量が摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者様の状況に応じた、口腔ケアを実施している。現在は、肺炎予防のため毎食後必ず声をかけ口腔ケア支援対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況を確認し、ご本人の排泄パターンの把握を行う。それらをもとに、トイレへの声掛けなどを実施し、自立に向けた支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりの生活リズムを把握してトイレ誘導をしたり、排泄チェック表を活用し時間を見計らってトイレ誘導するなど、トイレで排泄ができるよう支援している。 排泄チェック表を活用した職員のきめ細やかな支援により、紙パンツから布パンツに改善した利用者が数人いる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、冷たい牛乳や食物繊維の多い食材等で工夫している。車椅子の利用者様も手引き歩行など運動をして、腸の動きを促進するよう予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は一定の決まりはあるが、その中でご本人の希望を聞きながら、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は基本的に週3回午後に支援するとともに、外出から帰った際の入浴や寝る前の足浴を支援している。 利用者の好みの入浴剤を使用したり、仲の良い利用者同士と一緒に入浴ができるよう支援するなど、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やご本人の希望を取り入れ、居室の環境を整えたり、足浴や湯たんぽを使用したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について、資料や看護師からの指導をもとに理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除など、仕事をお手伝いいただくことで、役割を持って活動していただいたり、散歩や縫い物、草花の手入れ、書道など好きなことをして過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩など、一人ひとり希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。普段は行けない場所へは、家族と協力しながら出かけられるよう支援している。	<p>天気の良い日は利用者の体調や状態に合わせていく通りかある散歩コースを選んで散歩ができるよう支援している。</p> <p>利用者は職員と一緒に近隣に咲く梅を見に行ったりスーパーに買い物に出かけているほか、公用車を使用して鶴の岬にあるレストランまで外食に行くなどしており、職員は利用者が様々な場所に行けるよう支援をしている。</p> <p>近隣にある交流センターの夏祭りには利用者が家族等と一緒に出かけられるよう支援している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物など、ご本人が自由に使えるように支援している。管理が厳しい方に関しては、職員が管理しながら支援している。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にご本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下は広く明るくするとともに、ホールは天窓を設置して自然の陽光が入るように工夫している。また、和室にはお雛さまを飾ったり、梅の花を生けるなど、季節を感じられるよう工夫している。	<p>居間兼食堂は天窓を設置し自然の光を取り入れて明るい空間となっている。</p> <p>畳み敷きのスペースを設け、テレビを設置して利用者が寛げるよう配慮している。</p> <p>廊下やトイレ、浴室は明るく清潔に保たれているほか、共用空間の壁面には行事の写真や利用者の作品が掲示され、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を決めて、利用者様同士で思い思いに話したり、趣味を行ったり出来るようにしている。また、皆が集まる場所とは違うスペースの提供も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様は居室に家具やテレビ、イス、手作りの作品、写真などなじみの品物を持ち込み、落ち着いて過ごせる場所になっている。	利用者は家族等と相談しながら使い慣れた椅子やタンス、小物、写真、テレビなどを持ち込み、居心地よく過ごせるよう利用者好みの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が理解出来る様、目線にあった場所に印をする等、自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成24年6月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに運営推進会議で話し合い近隣住民に避難訓練への参加を働きかけることを期待する。	今年度内に、運営推進会議を利用して行政、近隣住民参加のもと、夜間を想定した避難訓練を実施する。	災害対策担当者と話し合い、5月18日の推進会議時に夜間を想定した避難訓練及び、消火活動を行うよう計画、皆様にお知らせ参加以来をする。	H24/5/18施行
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。